

領域実践交流シート

石狩市立双葉小学校 佐藤信明 2015/6/11

見つかった課題	教材備品の故障や消耗品の破損などが多く、備品修繕料や消耗品費を圧迫している。職員から「〇〇が壊れたので修繕してほしい。」「△△が摩耗したので新しいものを購入してほしい。」などの要望が年々多くなってきているように感じた。特にミシンについては毎年、故障して修繕費に3～4万円かかっていたこと、掃除用具などの消耗品費にも経費が嵩んでいた。
課題解決に向けた行動の経過	以前から備品の故障や破損については、使い方に問題があるのではないかという疑念を持っていたので、授業を覗いたり清掃作業の状況を見たりして、実際に使用している状況を確認した。
行動する上で見えたこと	ミシンについては、使い方というより手入れの仕方が足りないように感じた。また、清掃用具では自在ボーキを押して使っていることから、毛先が開いて破損し、交換するサイクルが早いことがわかった。
とりくみの結果、何がどうなったか	ミシンの修理については、業者が修理しているところを見たり、ミシン修理センターへ行って手入れ方法を教えてもらったり、インターネットなどで調べたところ、大きな破損でない限り素人でも修理できることがわかったため、修理道具を買って自分で修理することとした。また、自在ボーキなどの清掃道具は、正しい使い方を先生方に指導してもらうことで破損などが減っていった。その結果、修繕費や消耗品費が浮き、他の消耗品に当てることが出来るようになった。
とりくみの感想など	備品の手入れや使い方を指導することにより、長い期間使用することができ、結果的に経費の節約につながった。

領域実践交流シート

学校名【石狩市立樽川中学校】 記入者【坂地和哉】

作成日【2015年6月11日】

見つかった課題	本校の諸費を検証してみました。家庭科や技術・美術の実習費に関しては実費を徴収しているのだが、理科と学級費については定額を徴収していました。説明責任の観点からも実習費等の内訳を保護者に示し実費徴収出来ないかまたは無理であればその徴収金額を決定する算定基準を明確にできないか検討してもらうこととした。
課題解決に向けた行動の経過 (時系列で箇条書き程度)	<ul style="list-style-type: none"> ・理科の実習費については昨年度、理科主任が変わり1年間掛けて担当と協議を行った。 ・職員会議や年度末反省などを通して学級費と市経理および補助金との関係性を話し新年度の学年部会において学級費の使い方の検討などをお願いした。
行動する上で見えたこと	<ul style="list-style-type: none"> ・教科担当が変わると全く考え方も授業をすすめるうえでのポイントも変わってくる。学習指導要領を理解しても分からない部分がある。 ・新年度の始めの忙しい時期なのでなかなかゆとり時間を持つことが出来ない。 ・教科の中でも各学年ごとに担当が違うとなかなか共通認識にたてない部分も出てきてしまう。 ・即座に反応する教員とそうでない教員がいる。
とりくみの結果 なにがどうなったか	<ul style="list-style-type: none"> ・理科の実習費について昨年度は500円から400円に下げた。しかし今年度については同額の400円を徴収する事となった。昨年度、理科担当の3人のうち2人が変わり必要な物が足りない状況だから今年度は同額を徴収させて欲しいと担当者から懇願されたため。 ・今年度から学級費について全学年400円から300円に下げる事となった。時間の関係などから実費徴収や明確な算定基準までは出せなかったが一人の教員が中心になり全学年に声を掛けてくれて全学年で100円引き下げて今年度は進める事となった。
とりくみの感想 など	<ul style="list-style-type: none"> ・理科の実験材料の選択や必要性についてはなかなか事務職員は分からない範疇である。 ・学級費は集めると必要性の有無よりあるから使うとの認識しか持てない教員もいる。 ・教員の父母負担の軽減の意識付けには効果的だったのではないと思う。 ・すぐに反応してくれる教員に感動しこちら側から言わなかったのだが徴収金額を下げる事につながりました。 ・学級費の実費徴収は難しいかもしれない。